

# 数値目標の進捗状況について

国土交通省 北海道局

平成30年6月

# 数値目標の進捗状況

指標	基準値	現状値	数値目標	備考
来道外国人旅行者数	190万人 (H27年)	264万人 (H29年)	500万人 (H32年)	・ 基準値から増加傾向
外国人宿泊客延数の地方部割合 (地域平準)	27%(27.4%) (H27年)	27.3% (H28年)	36% (H32年)	・ 基準値から横ばい
客室稼働率の季節較差 (季節平準)	1.7倍(1.72倍) (H27年)	1.57倍 (H28年)	1.4倍 (H32年)	・ 基準値から平準化する傾向
農業産出額	11,110億円 (H26年)	12,115億円 (H28年)	12,000億円 (H37年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準値から増加傾向</li> <li>・ H28に目標値を上回る(要因分析及びフォローアップの継続が必要)</li> </ul>
食料品製造業出荷額	19,846億円 (H26年)	22,063億円 (H27年)	22,000億円 (H37年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準値から増加傾向</li> <li>・ H27に目標値を上回る(要因分析及びフォローアップの継続が必要)</li> </ul>
道産食品輸出額	663億円 (H26年)	674億円 (H29年)	1,500億円 (H37年)	・ 基準値からは増加しているが伸び悩んでいる

- 平成29年の来道外国人旅行者数は、前年の223万人から41万人(18.4%)増の264万人となっている。
- 平成29年における訪日外国人旅行者に占める来道外国人旅行者の割合は、前年の9.3%から0.1ポイント減の9.2%となっている。
- 平成29年における来道外国人旅行者の国・地域別内訳を見ると、アジア7カ国・地域からの旅行者が全体の約9割を占めている。
- 来道外国人旅行者数上位国・地域の一人当たりGDPと各年の来道旅行者数との関係を見ると、一定の相関が見られる。

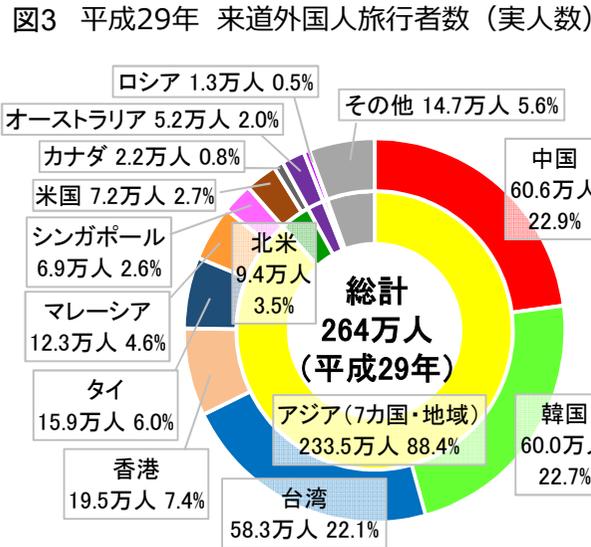
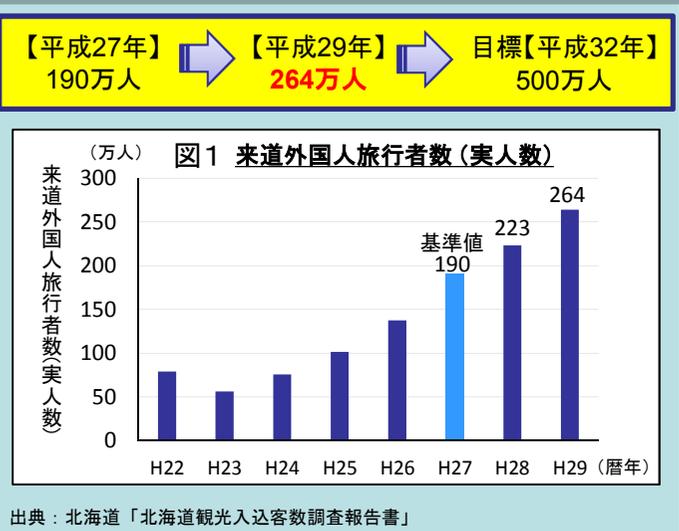
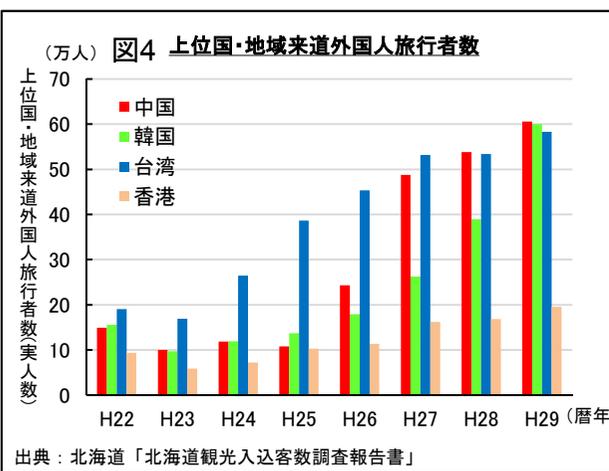
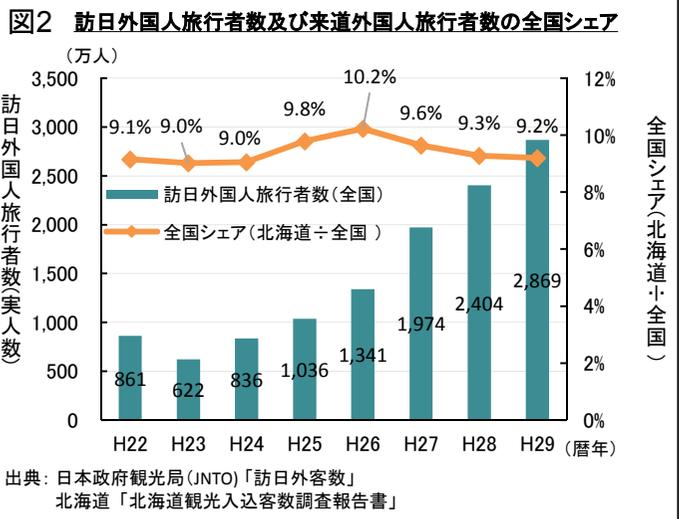
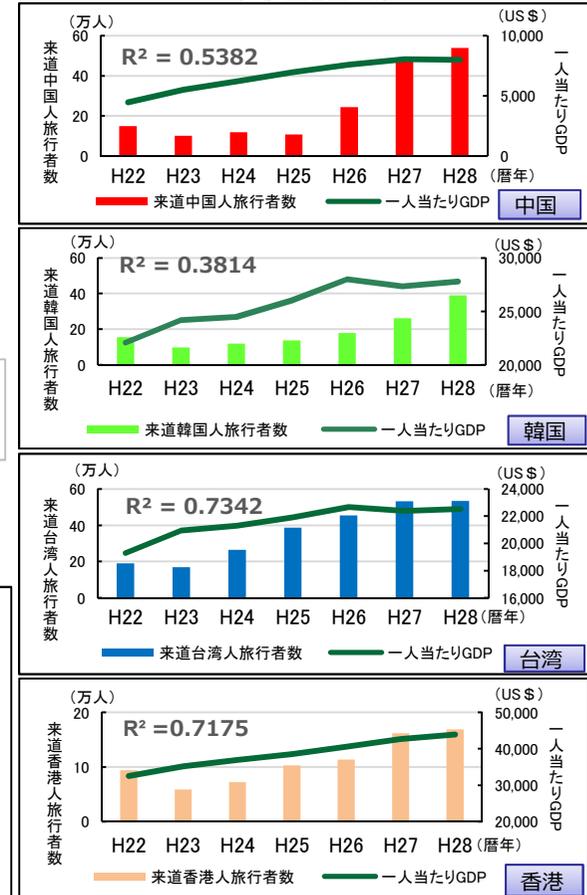


図5 国・地域別来道外国人旅行者数・一人当たりGDP (上位4国・地域)



出典：国・地域別一人当たりGDPは UNのNational Accounts Main Aggregates Database 台湾国家発展委員会・Taiwan Statistical Data Book 2017 1-1a. Indicators of the Taiwan Economy (P19) Per Capita GDP - US\$

来道外国人(中国・台湾・韓国・香港)旅行者数は 北海道「北海道観光入込客数調査報告書」

注：R<sup>2</sup>は、相関に関する決定係数であり、0から1の間の数値となる。1に近いほど相関が高い。

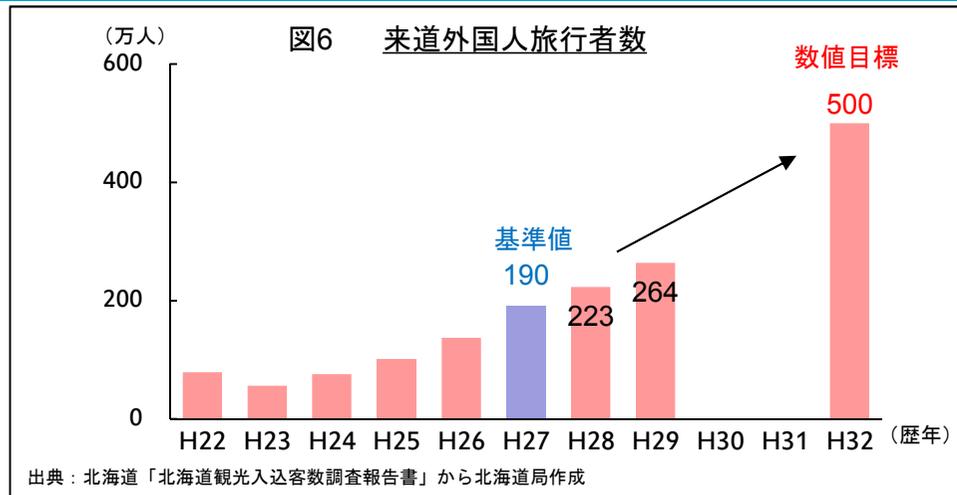
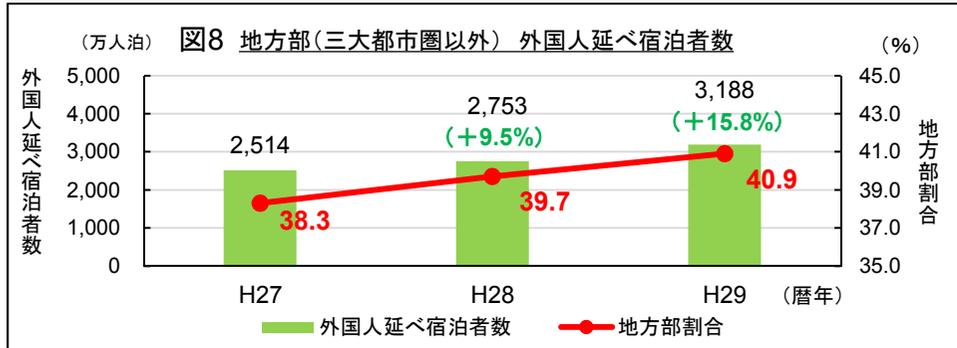
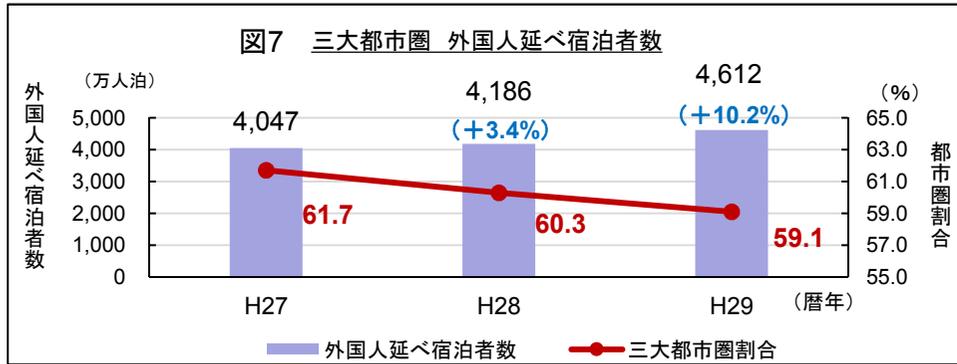


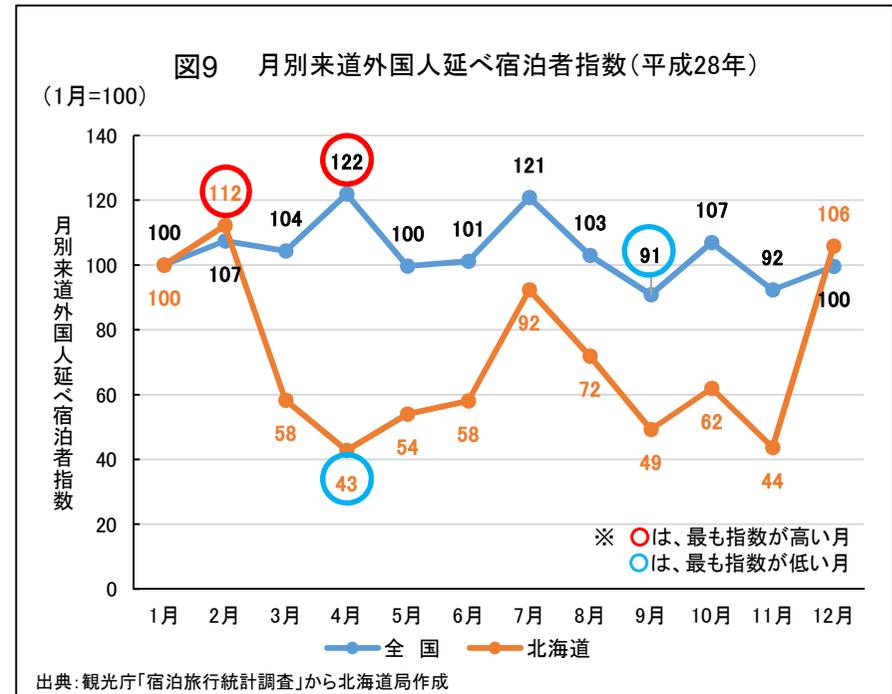
表 日本の観光地への訪問意向(複数回答)

	アジア全体		中国		台湾		香港		韓国	
1位	東京	45%	富士山	51%	北海道	52%	北海道	53%	東京	39%
2位	北海道	43%	東京	47%	京都	47%	大阪	42%	大阪	35%
3位	富士山	41%	北海道	44%	東京	43%	沖縄	42%	北海道	30%
4位	大阪	37%	京都	38%	大阪	42%	東京	40%	京都	30%
5位	京都	34%	大阪	34%	沖縄	36%	富士山	36%	札幌	29%

出典：株式会社日本政策投資銀行北海道支店「DBJ・JTBF アジア・欧米豪 北海道観光に関する訪日外国人旅行者の意向調査(平成29年版)」



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」



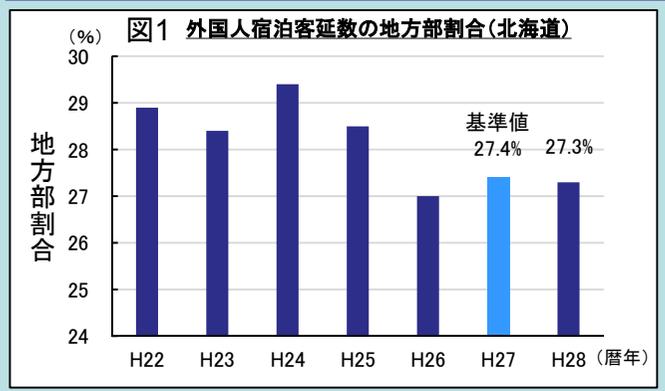
注：三大都市圏とは、「東京、神奈川、千葉、埼玉、愛知、大阪、京都、兵庫」の8都府県をいう。

# 数値目標の進捗状況 外国人宿泊客延数の地方部(\*)割合

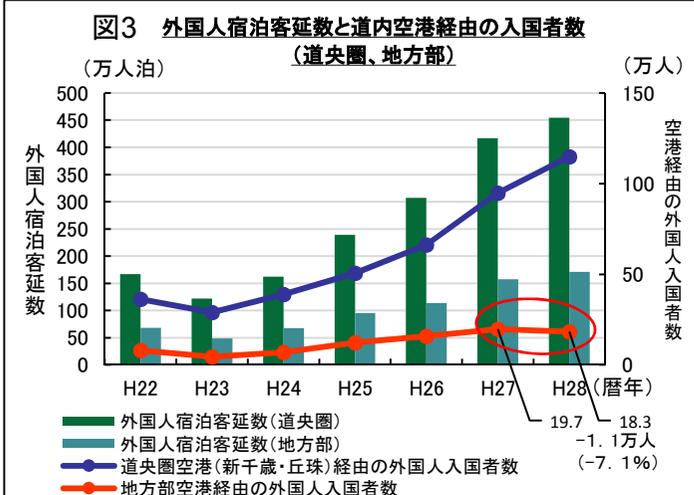
\* 道南、道北、オホーツク、十勝、釧路・根室の5つの圏域

- 平成28年の外国人宿泊客延数の地方部割合は、前年の27.4%から横ばいの27.3%となっている。
- 地方部における外国人宿泊客延数の伸び率を見ると、前年の158万人から13万人(8.2%)増の171万人となっているのに対し、道央圏は前年の416万人から39万人(9.3%)増の455万人となっており、道央圏の伸び率が地方部の伸び率を上回っている。
- (参考) ・ 地方部空港経由の外国人入国者数の推移を見ると、平成28年は平成27年と比較し7.1%減少しており、国際定期便数の減少等が影響したものと考えられる。
- ・ 平成28年の日本人宿泊客延数の地方部割合は、前年の45.2%から0.7ポイント増の45.9%となっており、外国人宿泊客延数の地方部割合よりも高い水準で安定的に推移している。

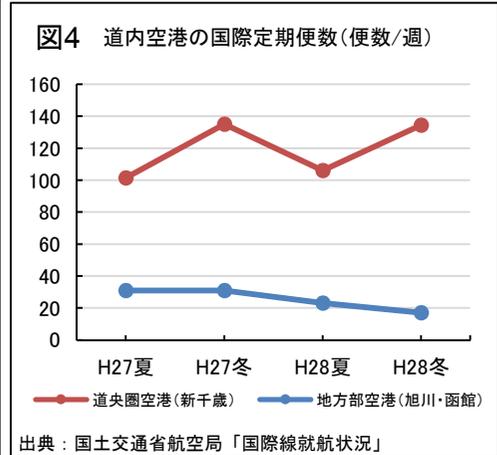
【平成27年】 27.4% → 【平成28年】 27.3% → 目標【平成32年】 36%



出典: 北海道「北海道観光入込客数調査報告書」から北海道局作成

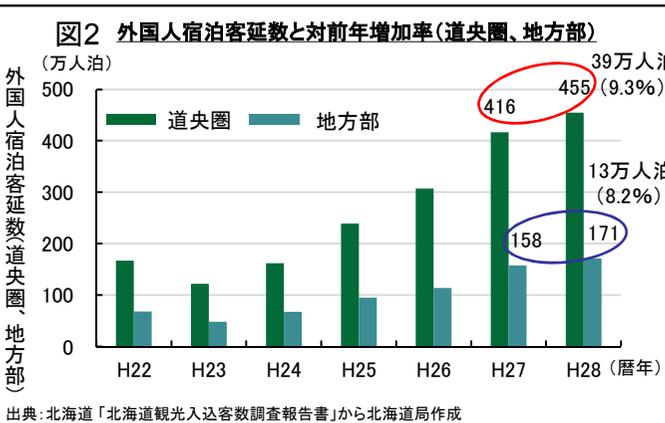


出典: 北海道「北海道観光入込客数調査報告書」から北海道局作成



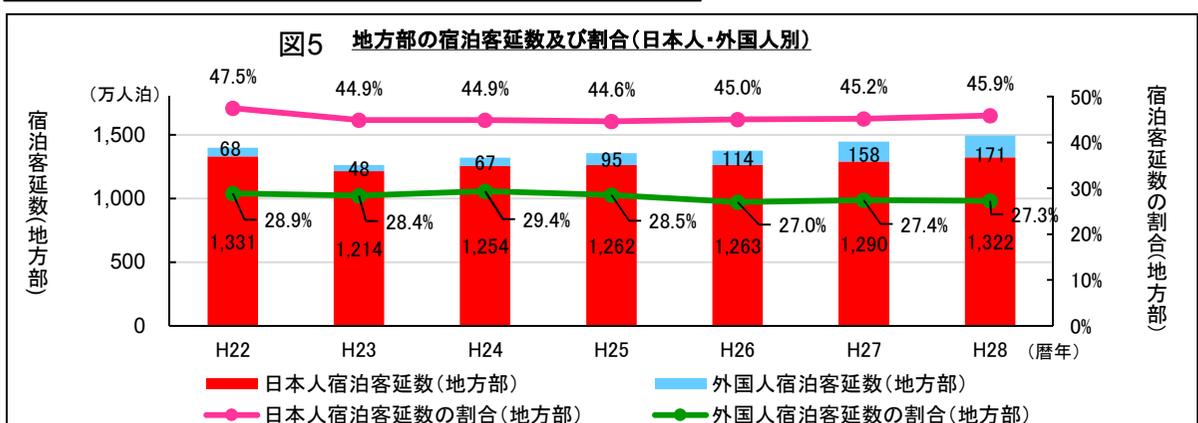
出典: 国土交通省航空局「国際線就航状況」

※ 平成28年の地方部空港の国際線定期便数は、平成27年と比較し、夏8便、冬14便減少している。



出典: 北海道「北海道観光入込客数調査報告書」から北海道局作成

注: ( )は、対前年増加率を示す。



出典: 北海道「北海道観光入込客数調査報告書」から北海道局作成

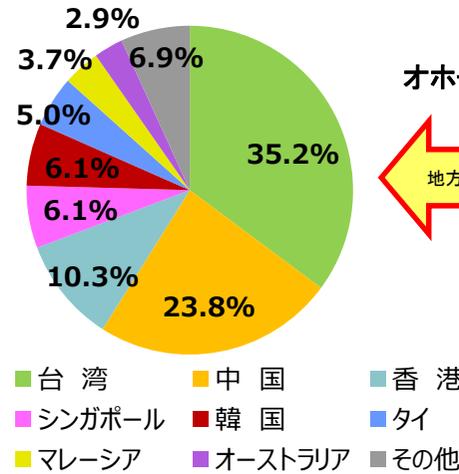
表1 地方部割合上位国・地域 (アジア7カ国・地域) (平成28年度)

国・地域名	地方部割合	宿泊客延数 (人泊)
台湾	39.1%	604,730
シンガポール	31.4%	105,719
中国	28.1%	409,470
香港	26.9%	177,669
マレーシア	23.1%	63,222
タイ	22.4%	86,149
韓国	12.1%	105,481

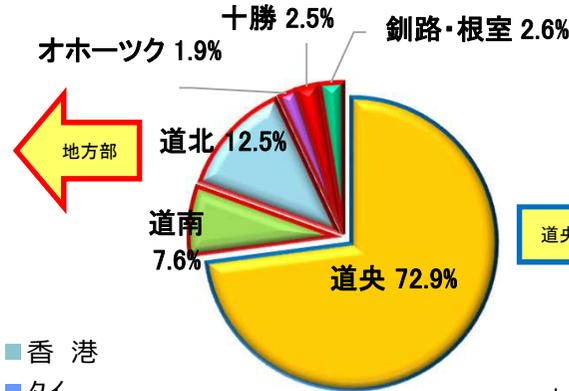
出典:北海道「北海道観光入込客数調査報告書」

図6

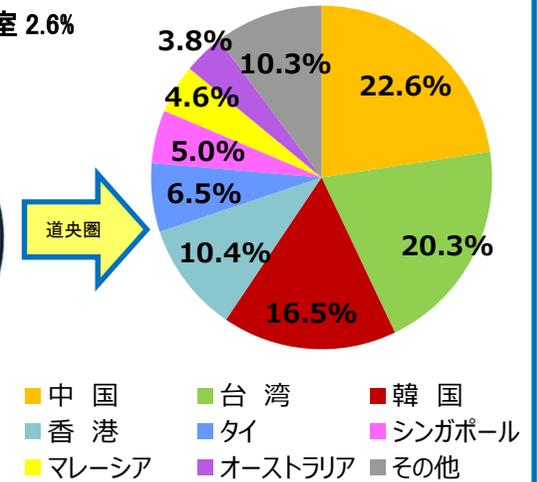
平成28年度 外国人宿泊客延数の国・地域別割合 (地方部)



平成28年度 来道外国人宿泊客延数の圏域別割合 (道内6圏域)



平成28年度 外国人宿泊客延数の国・地域別割合 (道央圏)



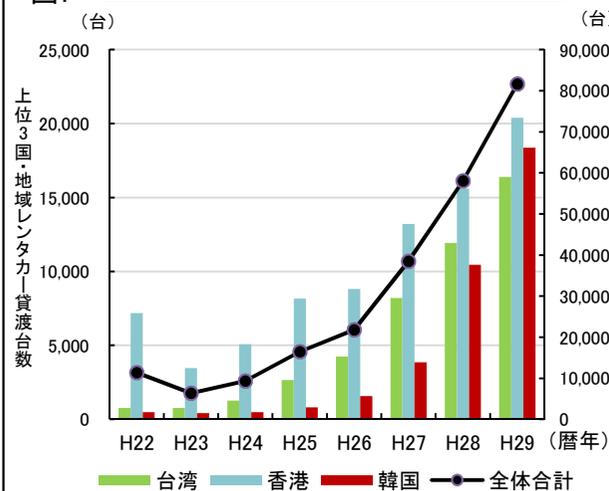
出典:北海道「北海道観光入込客数調査報告書」

表2 北海道への旅行回数

国・地域	初めて	2回目	3回目	4回目	5回以上
中国	78.6%	12.9%	5.70%	0.0%	2.9%
台湾	57.9%	23.8%	10.3%	2.3%	5.6%
韓国	77.3%	12.1%	6.1%	1.5%	3.0%
香港	48.0%	20.0%	20.0%	0.0%	12.0%
タイ	80.8%	11.5%	3.8%	0.0%	3.8%
マレーシア	64.3%	28.6%	7.1%	0.0%	0.0%
シンガポール	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
オーストラリア	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%
アメリカ	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ヨーロッパ	57.1%	14.3%	14.3%	0.0%	14.3%
その他	87.5%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%

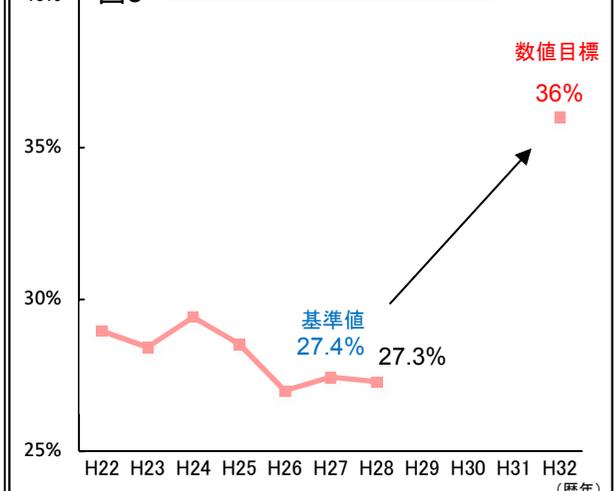
出典:北海道「平成28年度 観光客動態・満足度調査報告書」

図7 来道外国人レンタカー貸渡台数及び上位3国・地域貸渡台数



出典:北海道地区レンタカー協会連合会調べ

図8 外国人宿泊客延数の地方部割合



出典:北海道「北海道観光入込客数調査報告書」から北海道局作成

# 数値目標の進捗状況

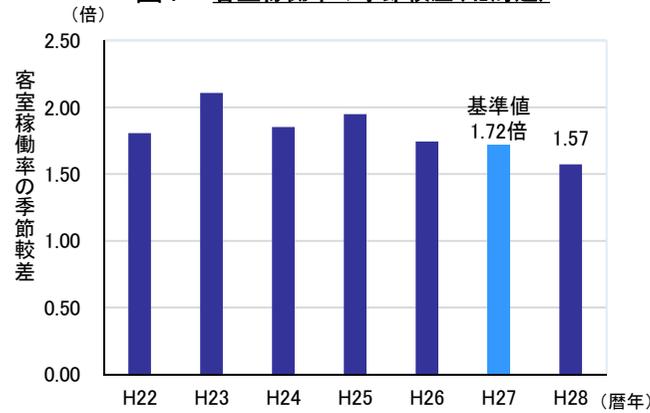
## 客室稼働率の季節較差<sup>(\*)</sup>

\* 季節較差 = 最高客室稼働率 / 最低客室稼働率

- 平成28年の客室稼働率の季節較差は、前年の1.72倍から0.15ポイント縮小し、1.57倍となった。
  - 過去5年間で、最も客室稼働率が低い月(最低客室稼働月)は4月であったが、当該4月の客室稼働率は、上昇傾向で推移している。
  - 道内における宿泊者数(実人数)の推移を見ると、日本人、外国人ともに増加傾向で推移しており、外国人の割合が徐々に高まってきている。
- (参考) ・ 日本人、外国人の月別宿泊客数を見ると、両方とも4月に少なくなる傾向がある。

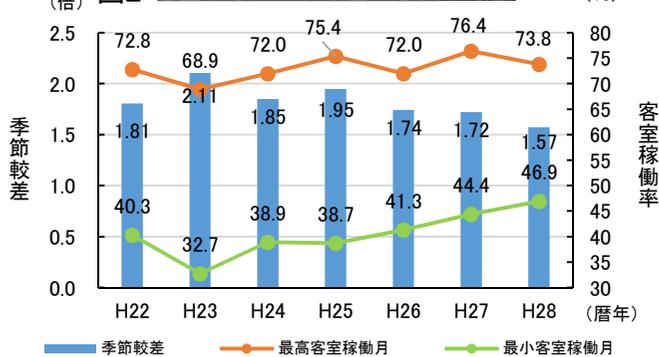
【平成27年】 1.72倍 → 【平成28年】 1.57倍 → 目標【平成32年】 1.4倍

図1 客室稼働率の季節較差(北海道)



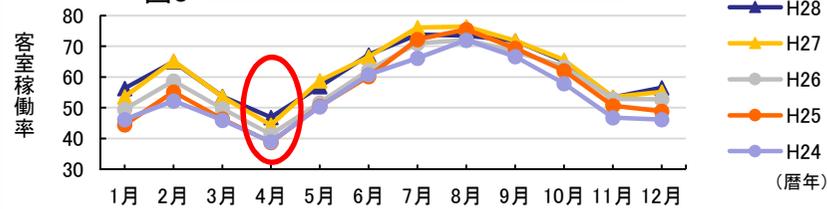
出典:観光庁「宿泊旅行統計調査」から北海道局作成

図2 客室稼働率と季節較差の推移(北海道)



出典:観光庁「宿泊旅行統計調査」から北海道局作成

図3 直近5年間の月別客室稼働率の推移(北海道)

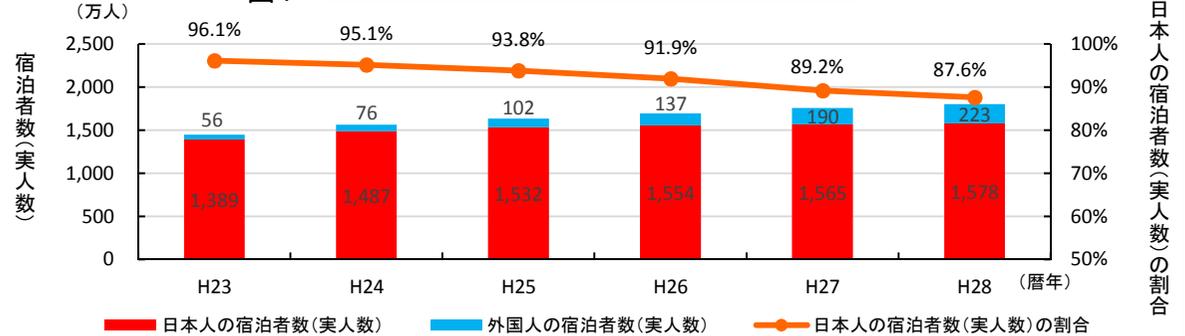


出典:観光庁「宿泊旅行統計調査」

【各年の最高・最低客室稼働月】

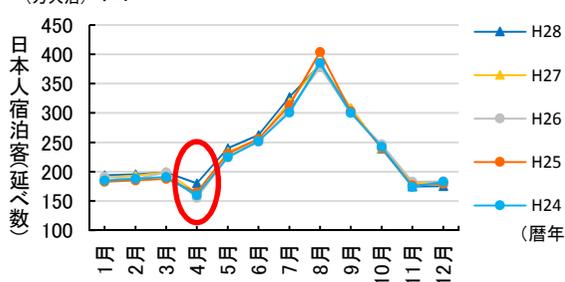
- ◇ 最高客室稼働月  
H24~H27 : 8月  
H28 : 7月
- ◇ 最低客室稼働月  
H24~H28 : 4月

図4 北海道における宿泊者数(実人数)の伸び(日本人・外国人別)



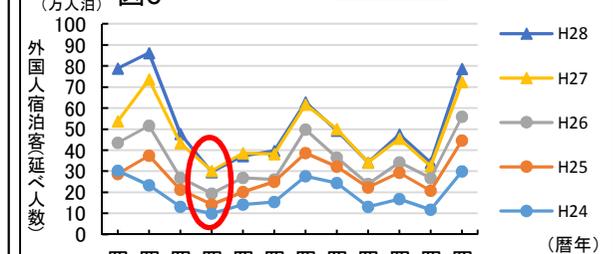
出典:観光庁「観光入込客統計」

図5 月別日本人宿泊客延べ数(北海道)



出典:北海道「北海道観光入込客数調査報告書」

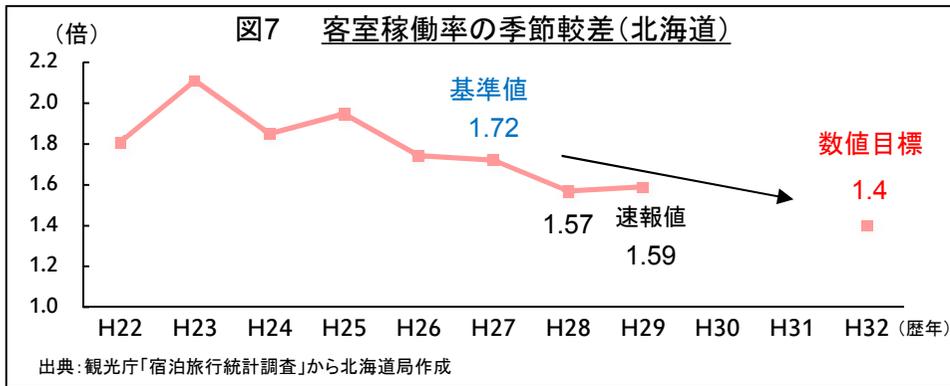
図6 月別外国人宿泊客延べ数(北海道)



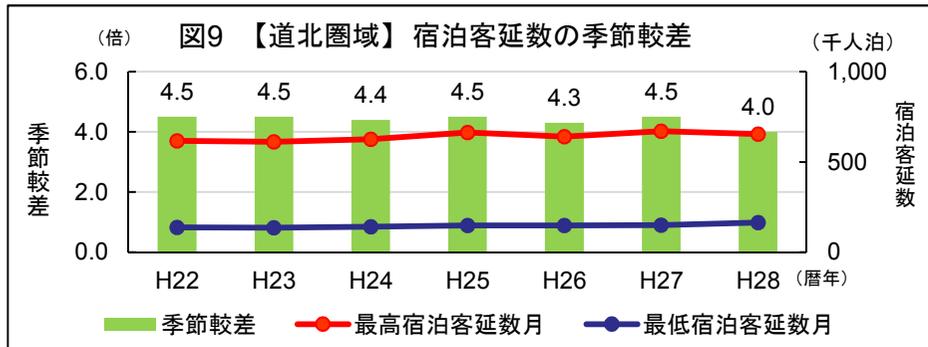
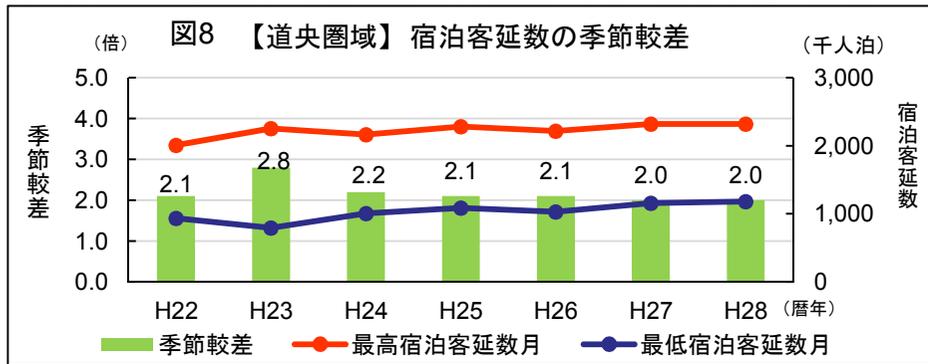
出典:北海道「北海道観光入込客数調査報告書」

(参考:モニタリング指標等)

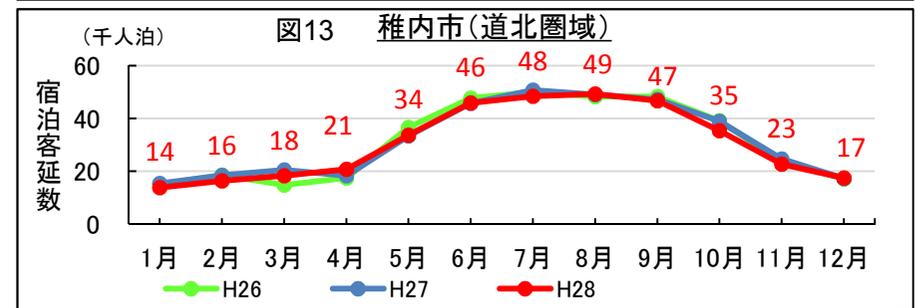
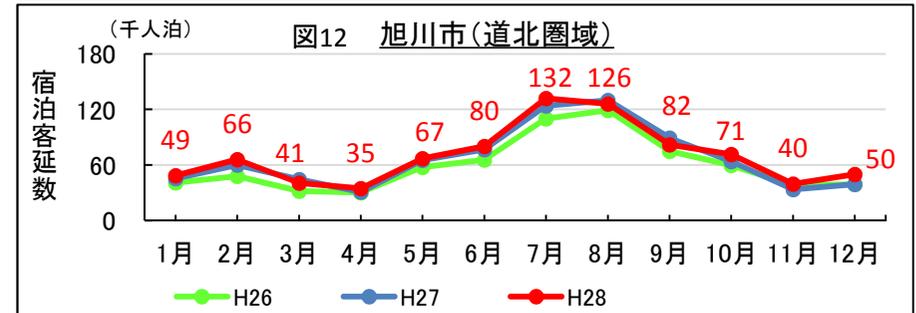
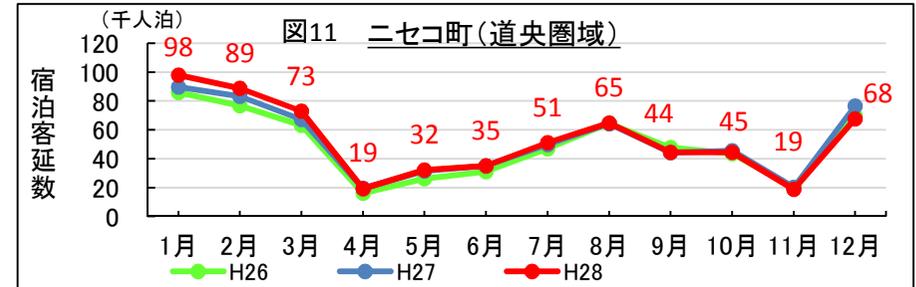
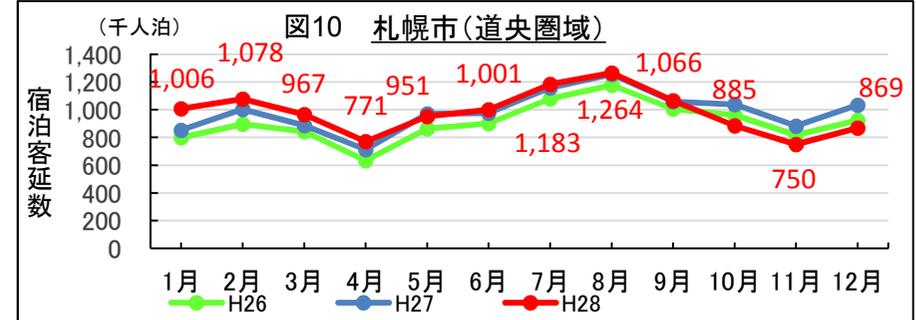
# 客室稼働率の季節較差



◇ 月別宿泊客延数の季節較差(季節格差の小さい圏域・大きい圏域)



注:圏域別の季節格差を比較するため、宿泊客延数の季節格差の推移を算出している(※客室稼働率の季節格差とは異なる。)



出典:北海道「北海道観光入込客数調査報告書」

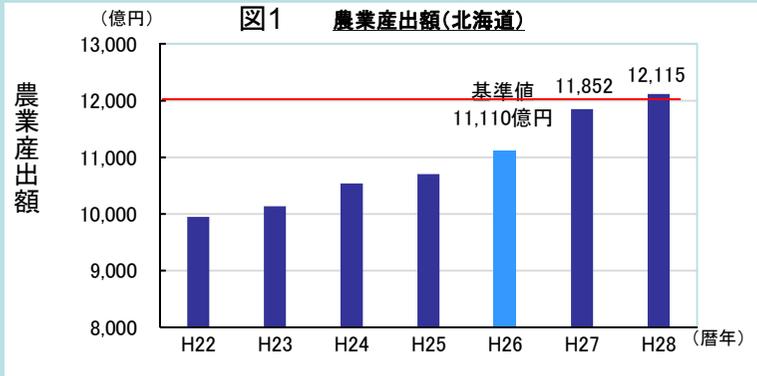


# 数値目標の進捗状況

# 農業産出額

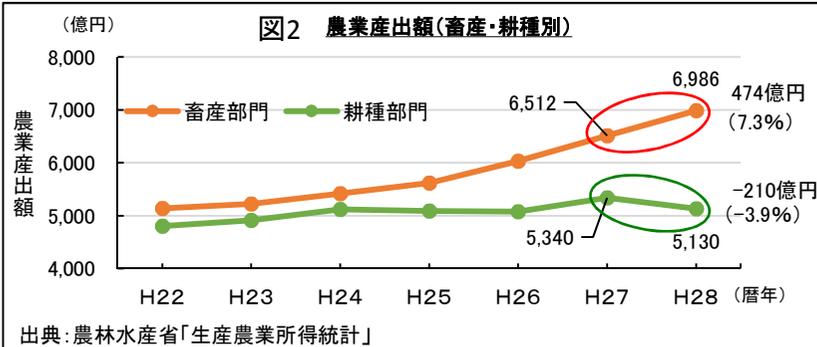
○ 平成28年の農業産出額は、前年の11,852億円から263億円増の12,115億円となり、目標値を上回る結果となっている(263億円増の内訳は、耕種部門が210億円(3.9%)の減、畜産部門が474億円(7.3%)の増。)  
 (参考) 農業産出額(畜産部門)が増加している要因としては、乳牛の販売頭数及び生乳生産量がほぼ横ばいで推移していること等から、乳牛等の価格上昇の影響が大きいと考えられる。

【平成26年】 11,110億円 → 【平成28年】 12,115億円 → 目標【平成37年】 12,000億円



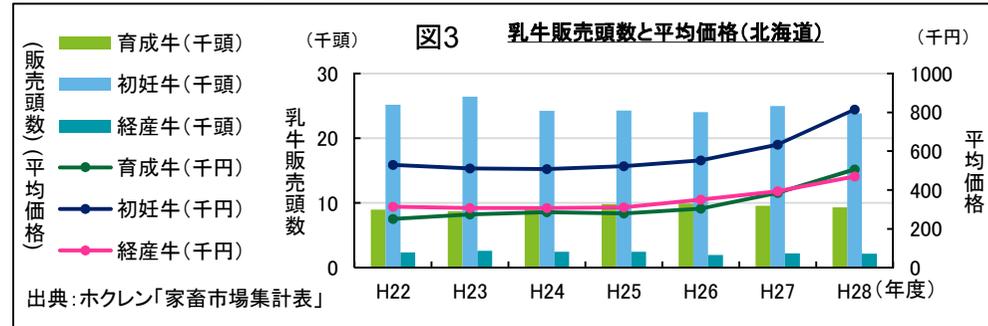
出典: 農林水産省「生産農業所得統計」

表 増減額内訳	計 (億円)	耕種部門		畜産部門		
		小計	小計	肉用牛	乳用牛	生乳
H27とH28差分	263	-210	474	69	395	97



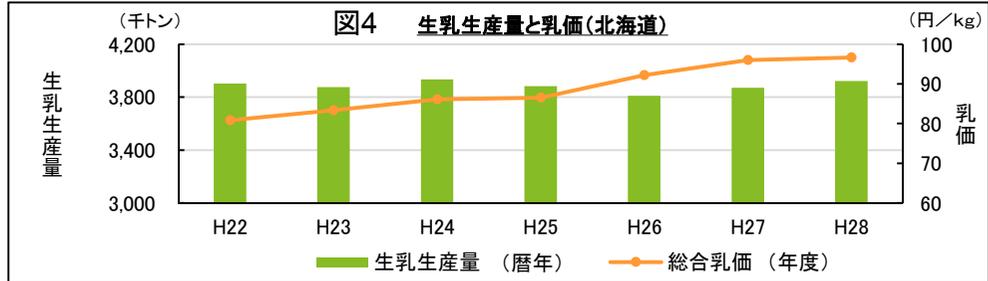
出典: 農林水産省「生産農業所得統計」

## 乳牛の価格が上昇



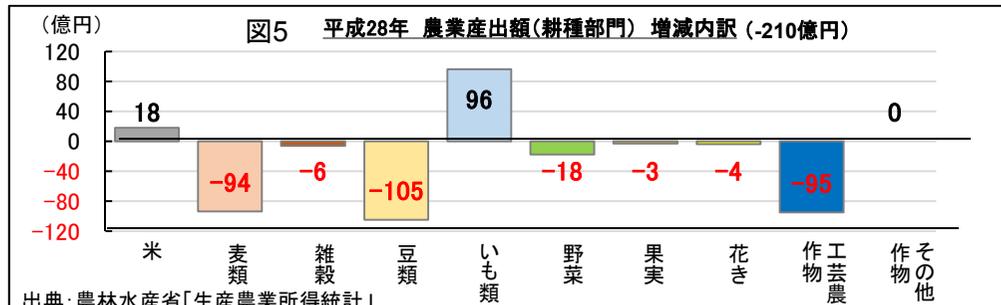
出典: ホクレン「家畜市場集計表」

## 生乳の価格は近年上昇



出典: 生乳生産量は、農林水産省「牛乳乳製品統計調査」、乳価は、ホクレン調べ

## ◇ 平成28年農業産出額(耕種部門)の増減内訳



出典: 農林水産省「生産農業所得統計」

(参考:モニタリング指標等)

# 農業産出額

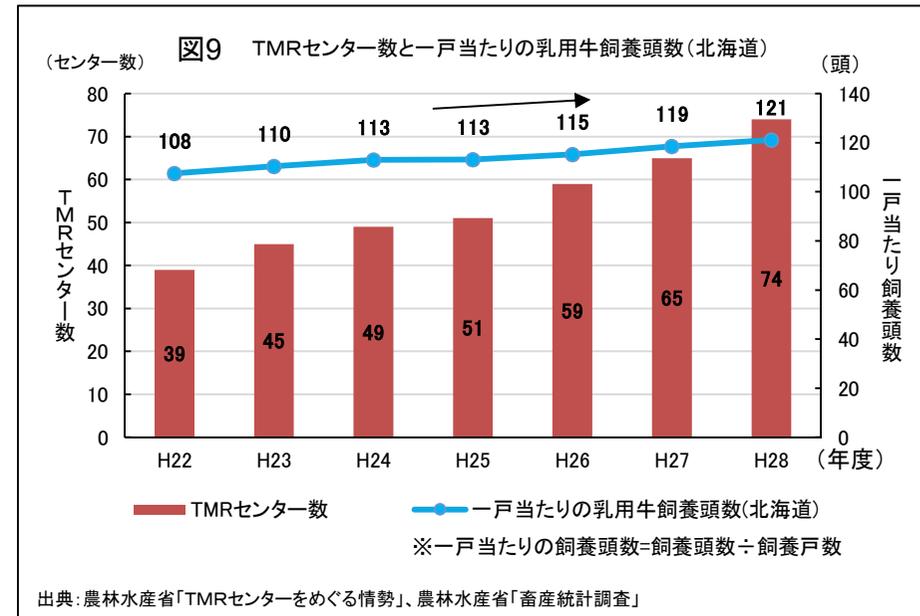
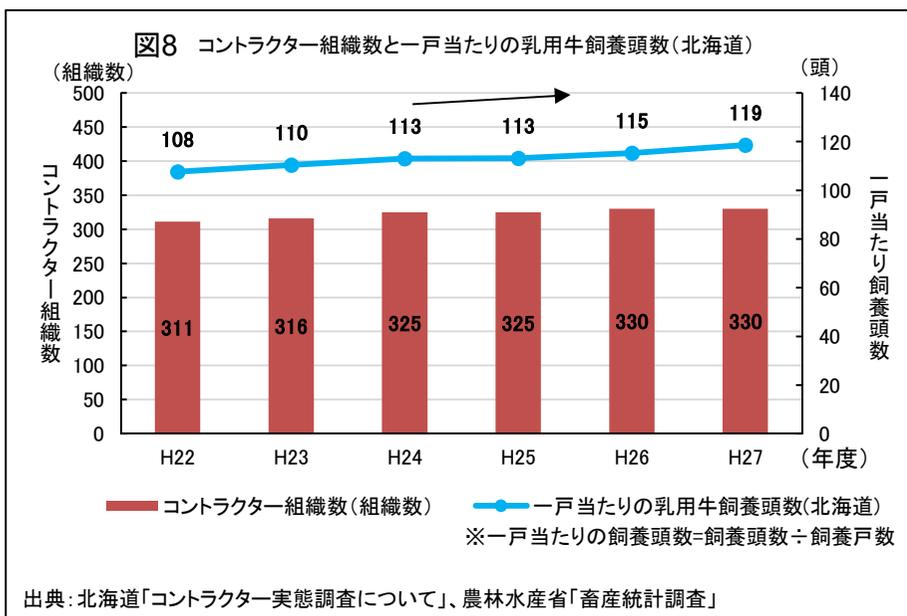
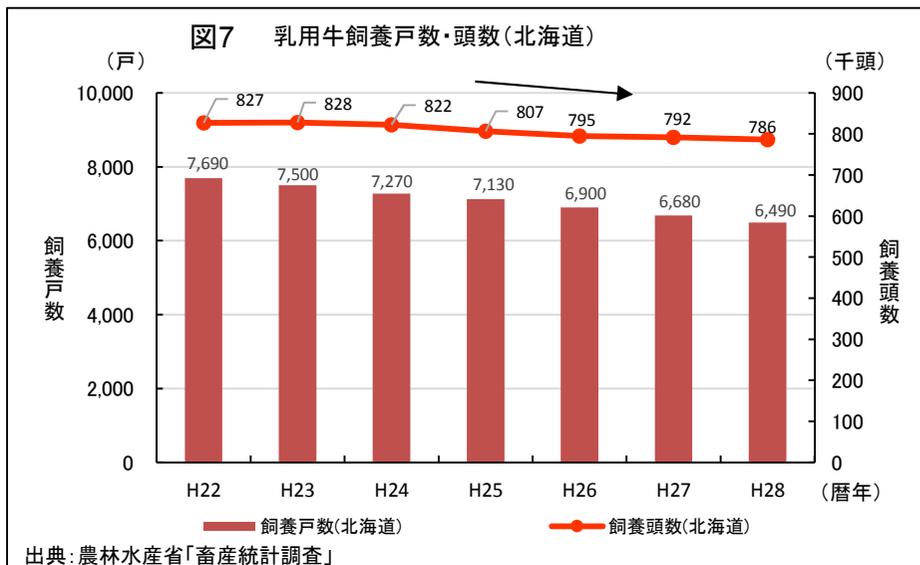
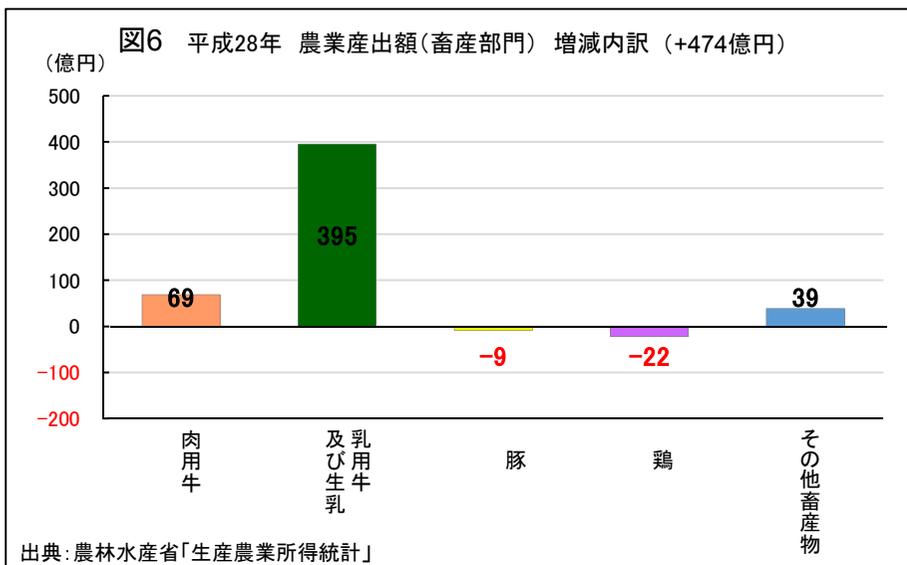
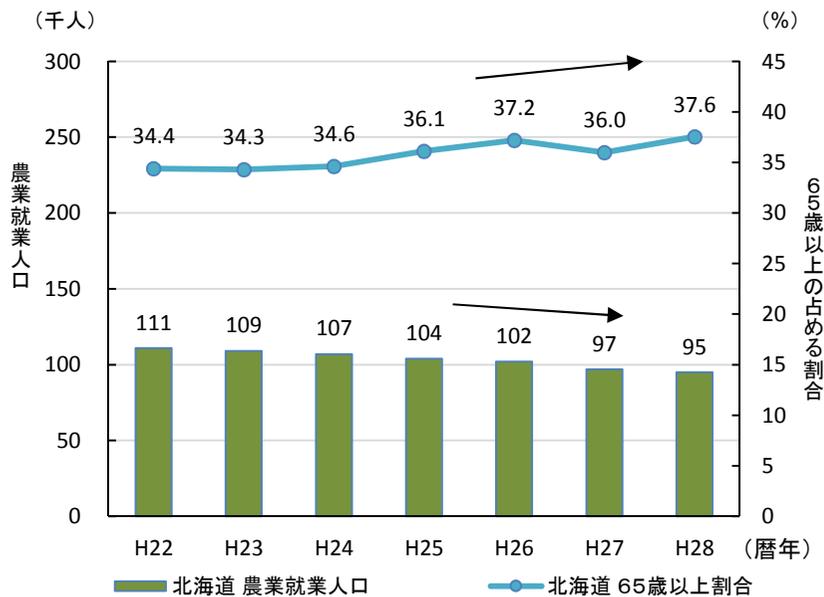
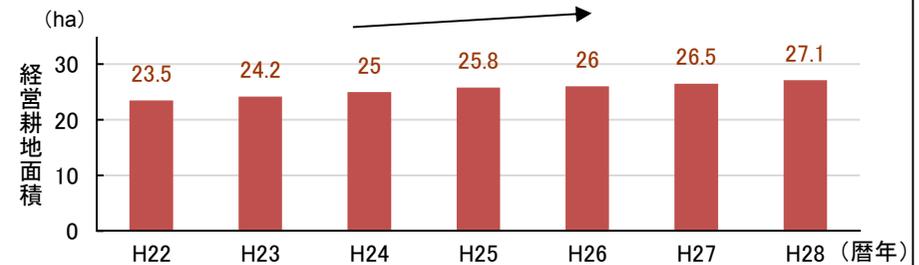


図10 農業就業人口及び65歳以上の占める割合の推移(北海道)



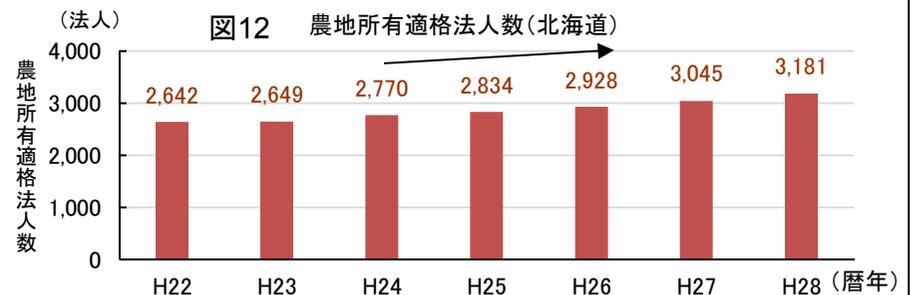
出典:農林水産省「農業構造動態調査」「農林業センサス」

図11 一経営体当たり経営耕地面積(北海道)



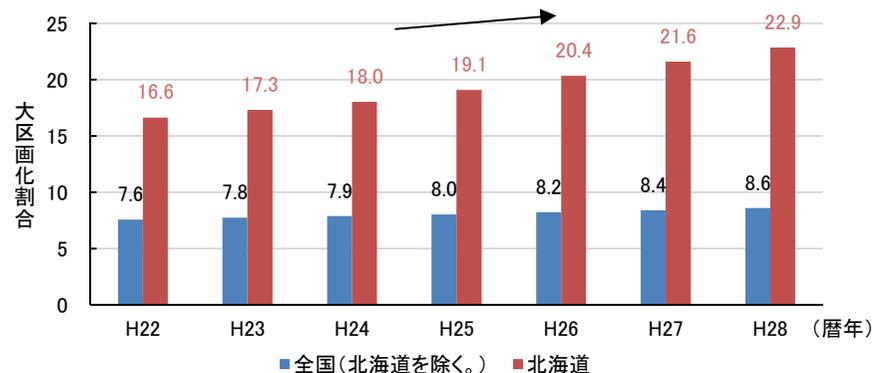
出典:農林水産省「農業構造動態調査」、「農林業センサス」

図12 農地所有適格法人数(北海道)



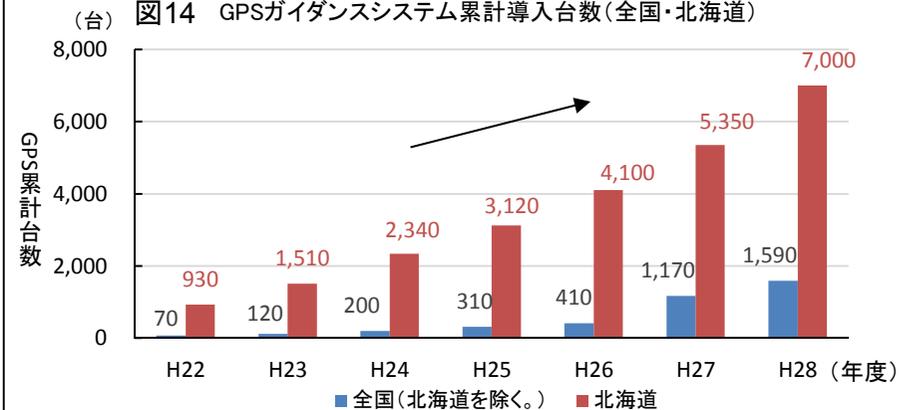
出典:北海道「本道の農地所有適格法人の概要」

図13 水田の大区画化(50a以上)割合(全国・北海道)



出典:食料・農業・農村政策審議会農業農村振興整備部会資料「農業生産基盤の整備状況について」

図14 GPSガイダンスシステム累計導入台数(全国・北海道)



出典:北海道「農業用GPSガイダンスシステム等の出荷台数の推移」

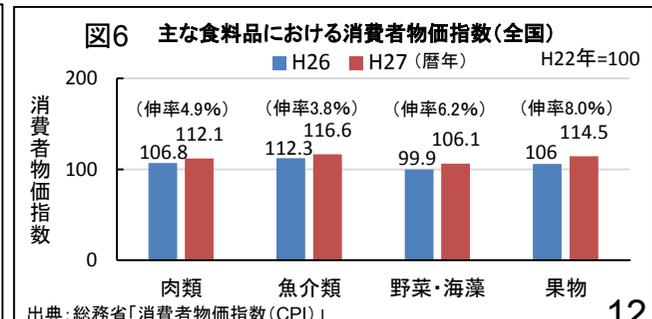
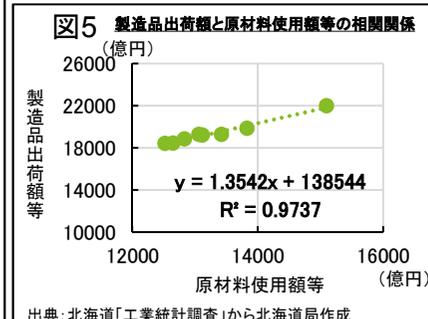
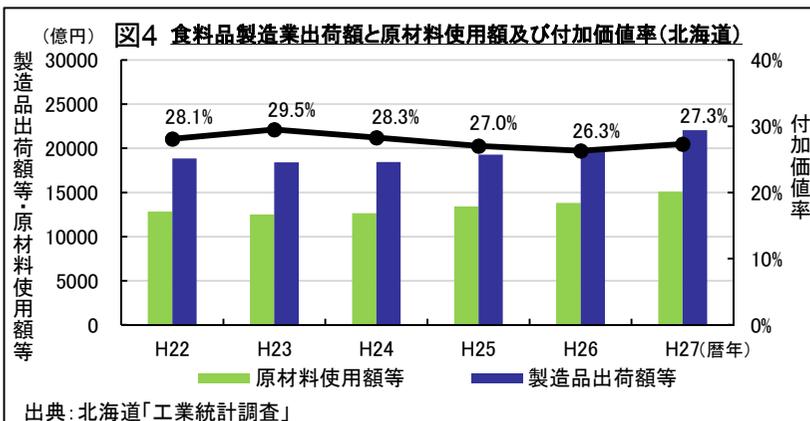
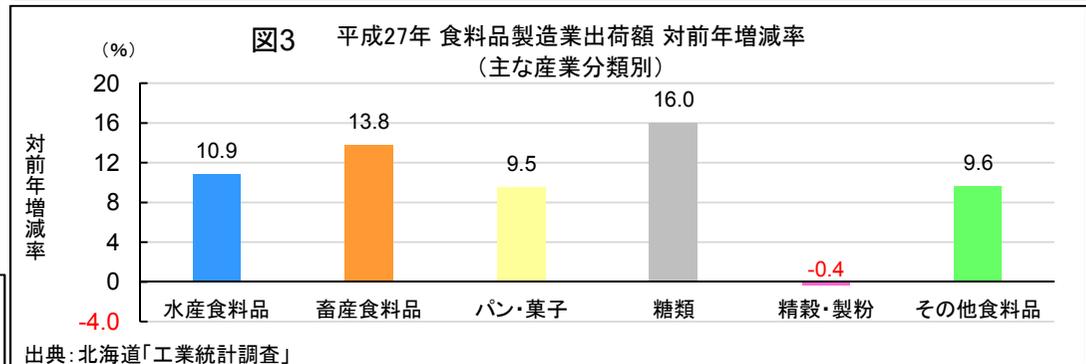
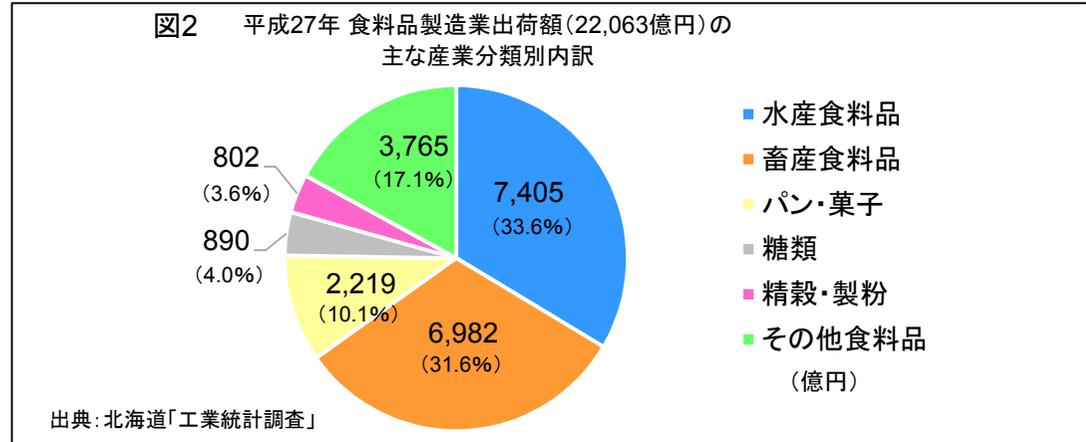
○ 平成27年の食料品製造業出荷額は、前年の19,846億円から2,217億円(11.2%)増の22,063億円となっており、目標値を上回る結果となっている。  
 (参考) ・ 原材料使用額等と食料品製造業出荷額との間には高い相関が見られる。  
 ・ 平成27年における食料品の消費者物価指数(全国)は、平成26年と比較し、高い伸びとなっている。

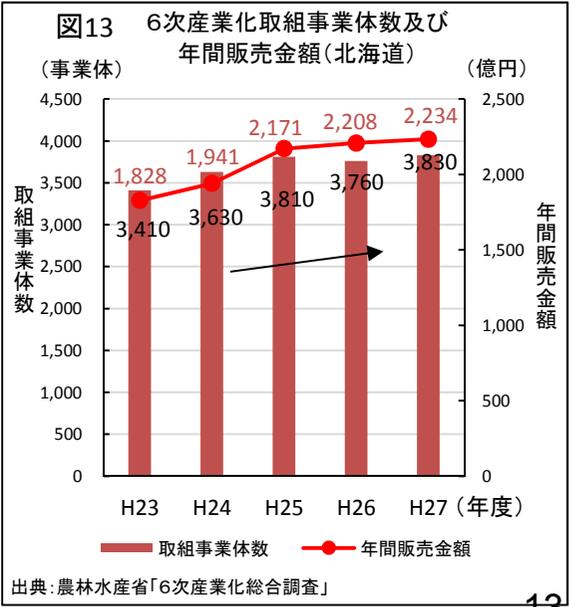
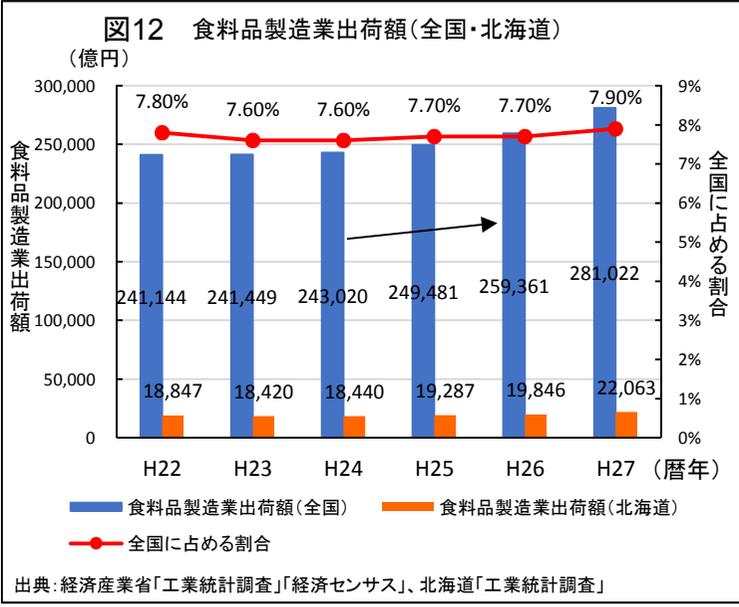
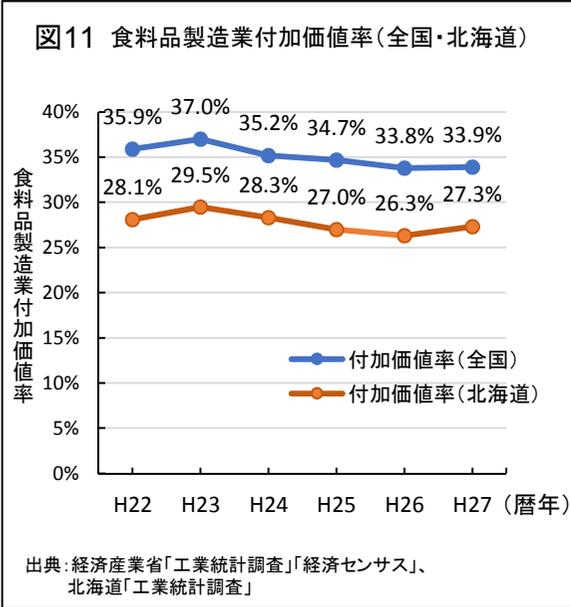
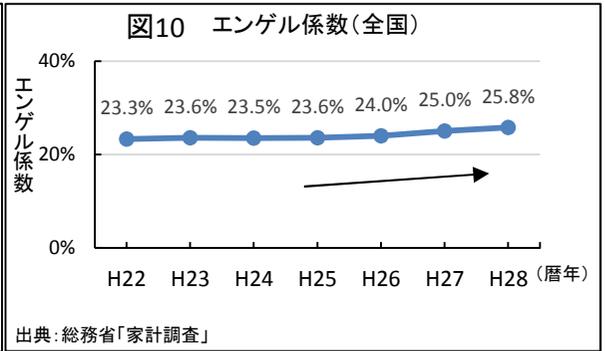
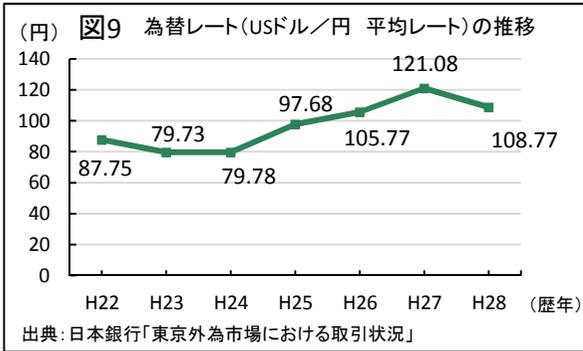
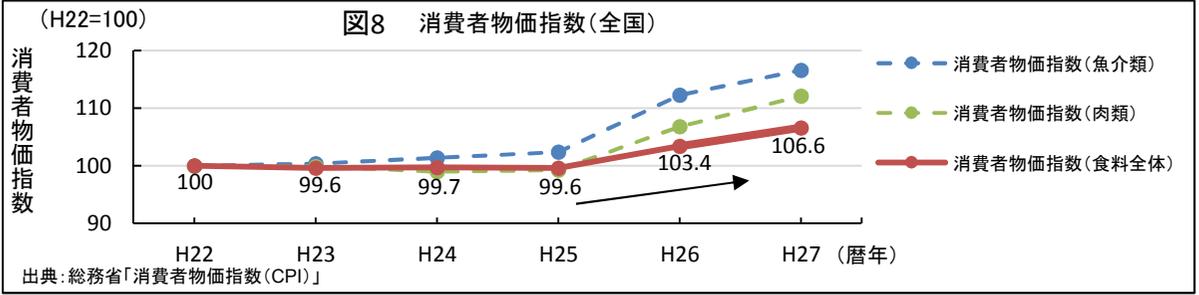
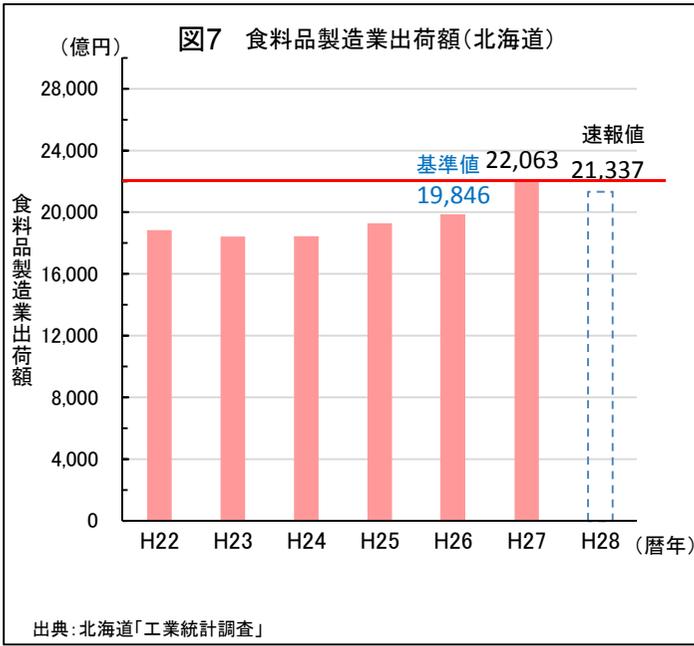
【平成26年】 19,846億円 → 【平成27年】 22,063億円 → 目標【平成37年】 22,000億円



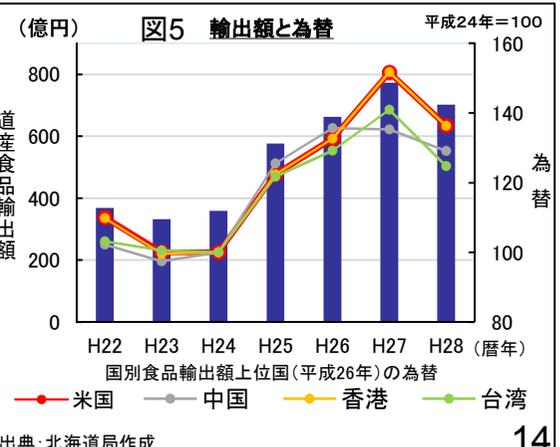
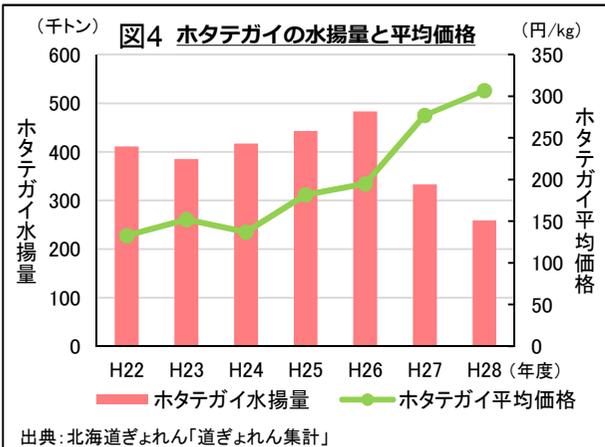
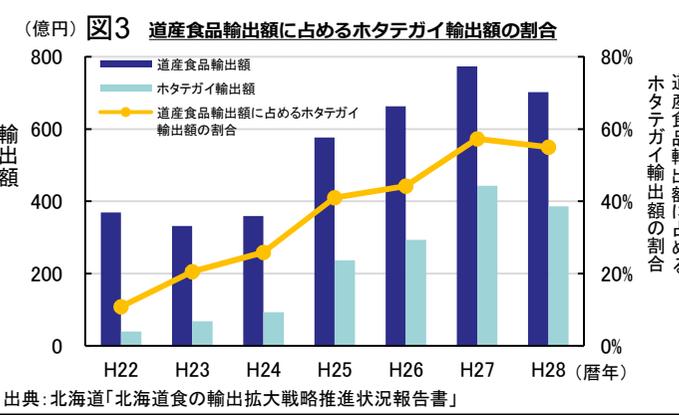
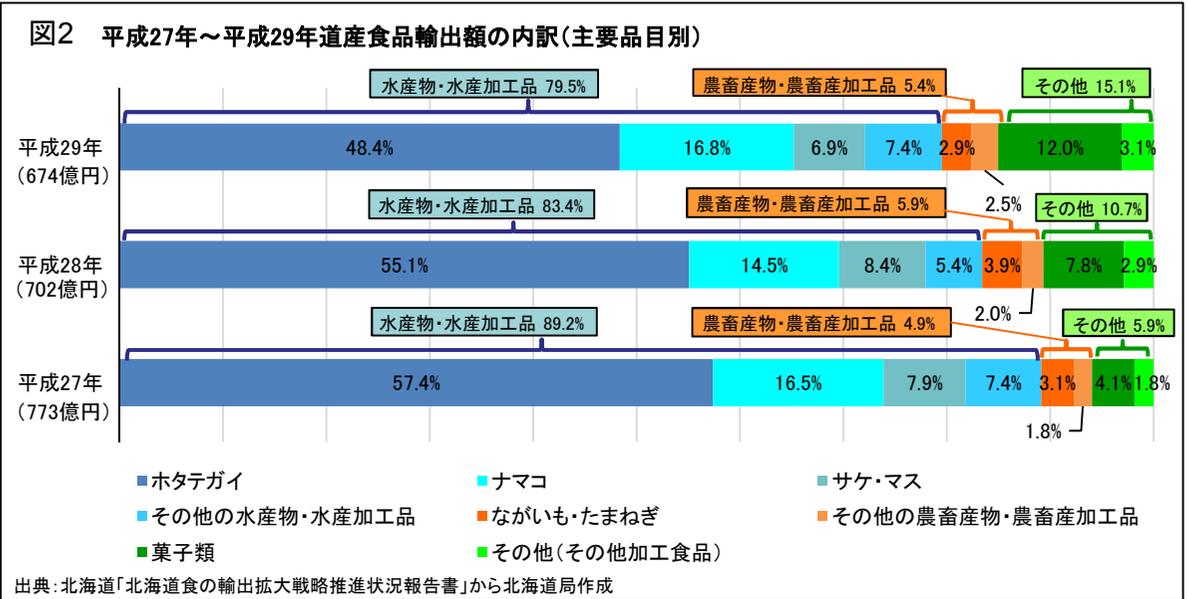
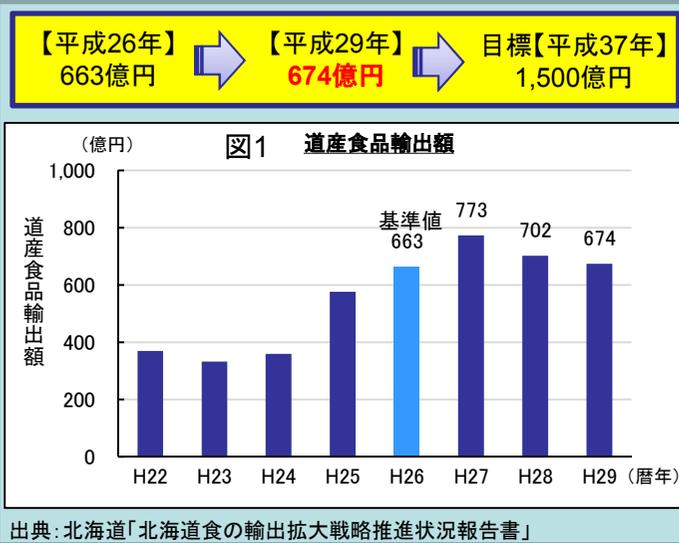
表 <平成27年 対前年増減率>

事業所数	従業者数	製造品出荷額
2.6%	3.8%	11.2%





○ 平成29年の道産食品輸出額は、平成26年の基準値を上回っているものの、2年連続で減少しており、平成27年(773億円)から99億円、前年(702億円)から28億円減の674億円(対前年3.9%減)となっている。  
 (参考) ・ 総輸出額の約80%を占める水産物・水産物加工品の動向(中でも全体の約50%を占めるホタテガイの動向)が、総輸出額の大きな増減要因になっていると考えられる。  
 ・ 平成27年は、ホタテガイの水揚量が減少したが、為替の影響等を受け単価が上昇し、輸出額が増加したと考えられる。



【ホタテガイ水揚量減少の主な背景】  
 ・ H26年12月: 大型低気圧によるオホーツク海域ホタテ稚貝の斃死  
 ・ H28年8月: 台風10号による噴火湾養殖施設の被害

(参考:モニタリング指標等)

# 道産食品輸出額

